

HTML の基本

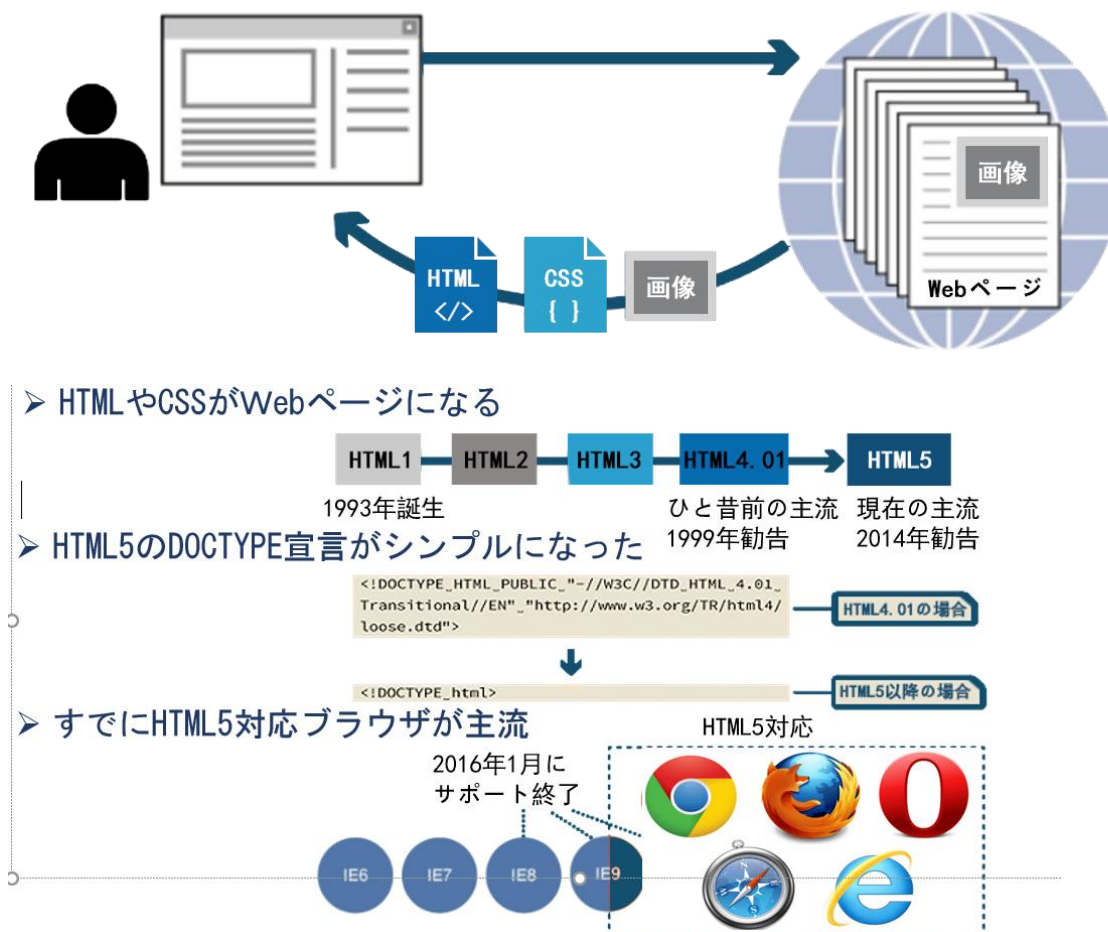
目次

第1章 HTML の基本	3
1.1 タグについて	3
第2章 文字の装飾とレイアウト	5
2.1 段落を指定する	5
2.2 改行する	6
2.3 線を引く	6
2.4 見出しを指定する	7
2.5 見出しと段落の位置を変える	9
2.6 文字の大きさを指定する	10
2.7 文字の色を指定する	11
2.8 ページ全体の文字の色を指定する	12
2.9 文字を太字や斜体にする	12
2.10 フォントを指定する	13
2.11 背景色を指定する	14
2.12 背景に画像を使う	14
第3章 画像	15
3.1 画像を表示する	15
3.2 画像のサイズを指定する	15
3.3 画像が表示されない場合のコメント	16
3.5 画像と文字の並び方を指定する	18
第4章 リンク	19
4.1 他のサイトにリンクする(テキスト)	19
4.2 他のサイトにリンクする(画像)	19
4.3 サイト内の別ページにリンクする	20
4.4 メール送信のリンク	21
4.5 同じページ内のリンク	21
4.6 他のページの特定の場所へリンクする	22
4.7 リンクの文字色を指定する	23
第5章 リスト	24

5.1 記号を使ったリスト.....	24
5.2 記号の種類を指定する.....	25
5.3 数字を使ったリスト.....	26
第6章 テーブル.....	27
6.1 テーブル(表)の基本.....	27
6.2 テーブルに見出しをつける.....	28
6.3 外枠の線の太さを指定する.....	29
6.4 テーブルのサイズを指定する.....	30
6.5 セルのサイズを指定する.....	31
6.6 セルを横につなげる.....	32
6.7 セルを縦につなげ.....	33
6.8 セルの枠と内容の間隔を指定する.....	34
6.9 テーブルの内枠の間隔を指定する.....	35
6.10 セル内の文字の位置を指定する.....	36
6.11 テーブルの背景に色をつける.....	37
6.12 テーブルの枠線の色を指定する.....	37
第7章 フォーム.....	38
7.1 フォームについて.....	38
7.3 パスワードボックス.....	40
7.4 テキストエリアボックス.....	41
7.5 ラジオボタン.....	42
7.6 チェックボックス.....	43
7.7 プルダウンボックス.....	43
7.8 リストボックス.....	45
7.9 送信ボタン.....	45
7.10 リセットボタン.....	46
7.11 データの送信先などの指定.....	47
7.12 メールで送信する.....	48

第1章 HTMLの基本

ホームページ（Web ページとも言います）は HTML という言語を使用して作られています。HTML は **HyperText Markup Language**（ハイパーテキスト・マークアップランゲージ）の略のことで、ホームページを作るための最も標準的な言語と言われています。HTML のバージョンによって異なるのですが、最新の HTML5 では `<!DOCTYPE html>` と書くことが決まっています。なお、終了タグはありません。



1.1 タグについて

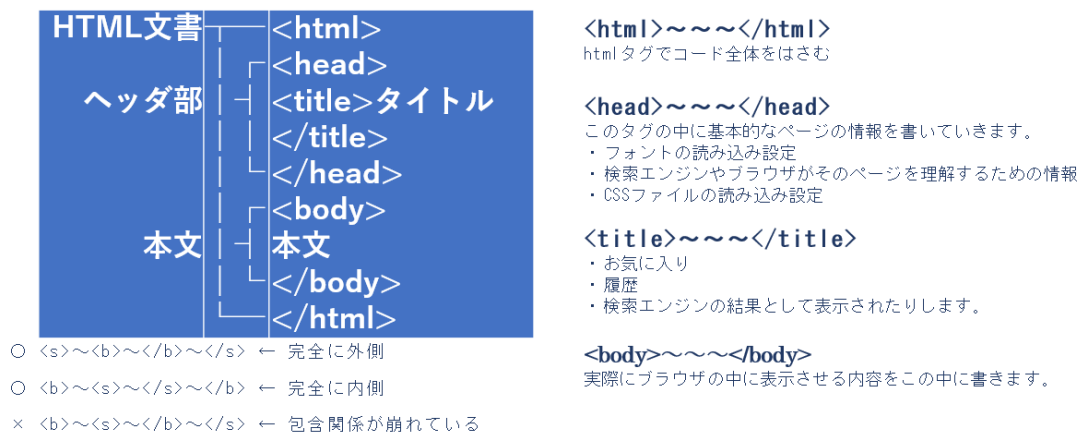
HTML 文章（HTML ソース）は、タグと言うものを使って書いていきます。＜と＞で囲まれたものをタグと言います。＜タグ名＞のようにタグを書きます。

タグは基本的に**開始タグ**（始まりのタグ）と**終了タグ**（終わりのタグ）に分かれています。開始のタグは＜タグ名＞のように書き、終了タグは＜/タグ名＞開始タグと終了タグでひとつのセットになります。

◇ は必ず半角文字で書いてください。開始タグと終了タグの間に内容を書いていきます。＜タグ名＞この囲まれた部分が内容になります。＜/タグ名＞

基本的なタグの説明

基本的な4つのタグを説明します。この4つのタグは必ずHTML文章に必要なものなので確実に覚えてください。



`<html>~~~~</html>`

このタグは、「これはHTML文章ですよ」と宣言しているタグです。`<html>`で始まり `</html>`で終わるこの書き方をHTML (Hyper-Text Markup Language) と呼びます。HTMLの規則に従って書かれた文書をHTML文書（あるいはHTMLファイル、HTMLソース）と呼びます。すべてテキストエディタで記述できる点が通常のワープロ文書と異なります。

`<head>~~~~</head>`

このタグの中に基本的なページの情報を書いていきます。`<head>~</head>`の部分をヘッダ部と呼びます。ヘッダ部にはタイトルなどを記述します。

`<title>~~~~</title>`

このタグは、ページのタイトルを指定します。タイトルはブラウザのタイトルバーに表示されるだけでなく、「お気に入り」や「履歴」に表示されたり、検索エンジンの結果として表示されたりします。必ず記述するようにしましょう。

`<body>~~~~</body>`

実際にブラウザの中に表示させる内容をこの中に書きます。

基本的にタグは、半角文字で書き大文字・小文字のどちらで書いてもかまいません。つまり、`<HTML>`と`<html>`は同じタグになります。どういう風にメモ帳に書けばいいのか下に書いておきます。以前は大文字で記述することが多かったですが、最近では小文字で記述することが多くなっています。<の後に空白があってはなりません。

- `<html>`
- `<HTML>`
- × `< h t m l >` ← 全角文字は駄目
- × `< html>` ← `<`の後に空白を入れては駄目

■ タグの包含関係

開始タグ～終了タグは、他の開始タグ～終了タグの完全に外側か、完全に内側でなくてはなりません。例えば、`<s>～</s>` を記述する場合、次のようになります。

- `<s>～～～</s>` ← 完全に外側
- `～<s>～</s>～` ← 完全に内側
- × `～<s>～～</s>` ← 包含関係が崩れている

■ 属性

`` の `color=red` のように **属性** を伴うものがあります。属性は多くの場合 **属性名＝属性値** という形式で記述します。たまに **属性名** だけ指定すればよい場合もあります。

- `～`
- `<input type=checkbox checked>`

第2章 文字の装飾とレイアウト

2.1 段落を指定する

■ `<p>～</p>`

`<P>`タグはParagraphの略で、`<P>～</P>`で囲まれた部分がひとつの段落であることを表します。一般的なブラウザでは`<P>～</P>`の前後に1行分改行されます。

 サンプル - Microsoft internet Explorer

ソース(sample2_1.html)

```
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>サンプル</title>
</head>
```

一段落目です。

二段落目です。

三段落目です。

```
<body>
<p>一段落目です。</p>
<p>二段落目です。</p>
<p>三段落目です。</p>
</body>
</html>
```

2.2 改行する

■

段落を分けずに改行します。改行した位置に
を記述すると、その位置で改行されます。

br 要素は空要素なので、終了タグは記述しません。

サンプル - Microsoft internet Explorer

一段落目の一行目です。
一段落目の二行目です。
一段落目の三行目です。

ソース(sample2_2.html)

```
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>サンプル</title>
</head>
<body>
<p>一段落目の一行目です。<br>
一段落目の二行目です。<br>
一段落目の三行目です。
</p>
</body>
</html>
```

2.3 線を引く

■ <hr>

線を引くには<hr>タグを使います。このタグには終了タグがなく単体で使います。size 属性、width 属性などの属性があります。size 属性は線の太さを指定出来ますし、width 属性で線の長さを指定することが出来ます。この他にも<hr>タグで使える属性はいろいろあります。

サンプル - Microsoft internet Explorer

ソース(sample2_3_1.html)

1. hr のみ
2. size="5"
3. width="100"
4. width="200"
5. width="50%"

```
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>サンプル</title>
</head>
<body>
  1. hrのみ
  <hr>
  2. size="5"
  <hr size="5">
  3. width="100"
  <hr width="100">
  4. width="200"
  <hr width="200">
  5. width="50%"
  <hr width="50%">
</body>
</html>
```

サンプル - Microsoft internet Explorer
1. width="30%" align="left"
2. width="30%" align="center"
3. width="30%" align="right"
4. color="blue"
5. noshade
6. size="10" width="50%" color="green"

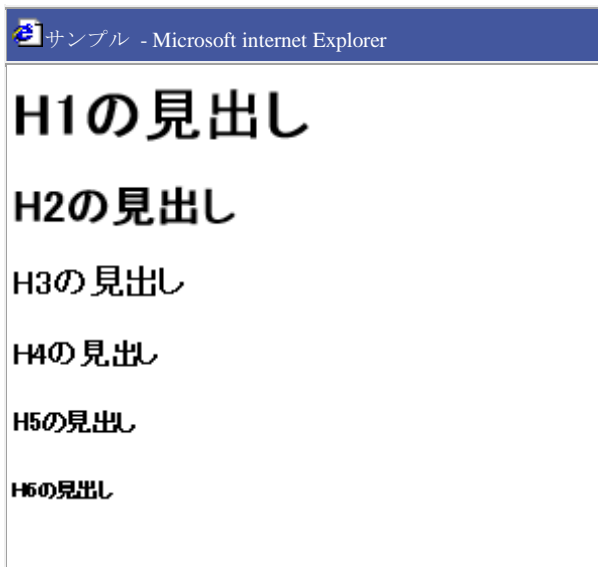
ソース(sample2_3_2.html)
<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> 1. width="30%" align="left" <hr width="30%" align="left"> 2. width="30%" align="center" <hr width="30%" align="center"> 3. width="30%" align="right" <hr width="30%" align="right"> 4. color="blue" <hr color="blue"> 5. noshade <hr noshade> 6. size="10" width="50%" color="green" <hr size="10" width="50%" color="green"> </body> </html></pre>

2.4 見出しを指定する

■ <h1>～</h1> (n には 1～6 の整数を記入)

<h>タグを使えば、見出しをつけることが出来ます。見出しは 1 から 6 までの整数で、6 段階に設定することが出来ます。<h1>が最大レベルの見出しで文字が最も大きく表示され、<h6>が最小レベルの見出しで最も小さく表示されます。

それと、このタグに囲まれた範囲は太字になり、前後が改行されます。



ソース(sample2_4.html)
<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> <h1>h1の見出し</h1> <h2>h2の見出し</h2> <h3>h3の見出し</h3> <h4>h4の見出し</h4> <h5>h5の見出し</h5> <h6>h6の見出し</h6> </body> </html></pre>

2.5 見出しと段落の位置を変える



■ `<h1 align="キーワード">～</h1>`

`<p align="キーワード">～</p>`

キーワードには **left**、**center**、**right** のいずれかを指定

`<h>`タグや`<p>`タグに **align** 属性をつけることによって、見出しや段落の位置を中央や右にすることができます。この **align** 属性を指定しない場合は自動的に左になります。

align="left"とすれば左に、**align="center"**とすれば中央に、**align="right"**とすれば右へ配置することができます。この **align** 属性は`<h>`タグや`<p>`タグ以外のタグでも使いますので、必ず覚えておいてください。

 サンプル - Microsoft internet Explorer	<div>ソース(sample2_5_1.html)</div> <pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> <h2 align="left">左の見出し</h2> <h2 align="center">中央の見出し</h2> <h2 align="right">右の見出し</h2> </body> </html></pre>
 サンプル - Microsoft internet Explorer	<div>ソース(sample2_5_2.html)</div> <pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> <p align="left"> 左の段落です。
 何も指定しなくてもこうなります。 </p> <p align="center"> 中央の段落です。
 中央に表示されます。 </p> <p align="right"> 右の段落です。
 右に表示されます。 </p> </body> </html></pre>

2.6 文字の大きさを指定する

■ ~

文字の大きさを指定するには、タグに **size 属性**をつけて、値に 1 から 7 までの整数を指定します。7 を指定した場合が最も大きく表示され、数値が小さくなるほど文字の大きさは小さくなります。

















注意点として、font と size 属性の間には、必ず**半角のスペース**を入れて下さいね。全角のスペースを入れたり、スペースを入れなかった場合は上手く表示されません。

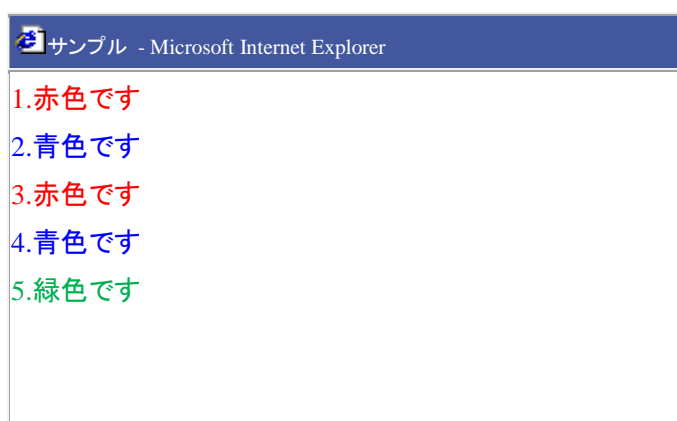
サンプル - Microsoft Internet Explorer	ソース (sample2_6.html)
<p>font size 7</p> <p>font size 6</p> <p>font size 5</p> <p>font size 4</p> <p>font size 3</p> <p>font size 2</p> <p>font size 1</p>	<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> font size 7
 font size 6
 font size 5
 font size 4
 font size 3
 font size 2
 font size 1
 </body> </html></pre>

2.7 文字の色を指定する

■ ～

タグの **color** 属性を使えば、文字の色を指定することが出来ます。色の指定は、**カラー名か Rgb 値**で指定します。Rgb 値で色を指定するときは、6桁の英数字の前に**#**（ハッシュマーク）を忘れずに必ずつけます。

基本的なカラー見本											
	black	#000000		gray	#808080		silver	#c0c0c0		white	#ffffff
	navy	#000080		green	#008000		lime	#00ff00		blue	#0000ff
	teal	#008080		olive	#808000		yellow	#ffff00		aqua	#00ffff
	maroon	#800000		purple	#800080		magenta	#ff00ff		red	#ff0000



ソース (sample2_7.html)
<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> 1. 赤色です
 2. 青色です
 3. 赤色です
 4. 青色です
 5. 緑色です </body> </html></pre>

2.8 ページ全体の文字の色を指定する

■ <body text="カラー名か RGB 値">

<body>タグに **text** 属性をつけることで、1 ページ全体の文字の色を指定することが出来ます。色の指定は属性値に red などのカラー名、もしくは#ff0000 のように RGB 値で指定します。

サンプル - Microsoft Internet Explorer	ソース (sample2_8.html)
このページの文字色がオレンジ色になりました。 ここは赤色です ここも、もちろんオレンジ色です。	<pre><html> <meta charset="UTF-8"> <head> <title>サンプル</title> </head> <body text="orange"> このページの文字色がオレンジ色になりました。
 ここは赤色です
 ここも、もちろんオレンジ色です。 </body> </html></pre>

2.9 文字を太字や斜体にする

■ ~、<i>~</i>など

タグを使えば文字を太字に、<i>タグを使えば文字を斜体にする事が出来ます。文章の中で目立たせたい部分などに使うと効果的です。

サンプル - Microsoft Internet Explorer	ソース (sample2_9.html)
ここは太字になります ここは斜体になります ここは下線になります ここは取り消し線になります ここは 上付き文字になります ここは 下付き文字になります	<pre><!DOCTYPE html> <html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> ここは太字になります
 <i>ここは斜体になります</i>
 <u>ここは下線になります</u>
 <s>ここは取り消し線になります</s>
 ここは<sup>上付き文字になります</sup>
 ここは<sub>下付き文字になります</sub> </body> </html></pre>

2.10 フォントを指定する

■ ～

タグに face 属性をつければ、フォントの種類を指定することが出来ます。値には、MS P 明朝や arial black などのフォント名を指定します。

注意しなければならないのは、フォント名を指定する場合、全角半角、大文字小文字をすべて正しく記入しないといけません。また、フォント名にスペースが入る場合は半角のスペースを入れます。

サンプル - Microsoft internet Explorer
MS P 明朝 MS P ゴシック HG 丸ゴシック M-PRO Comic Sans MS Westminster Lucida Sans
ソース (sample2_10.html)
<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> MS P明朝
 MS Pゴシック
 HG丸ゴシックM-PRO
 Comic Sans MS
 Westminster
 Lucida Sans
 </body> </html></pre>

2.11 背景色を指定する

■ <body bgcolor="カラー名か RGB 値">

背景の色は internet Explorer の場合、初期設定は白ですが、html 文書の本文の始まりに記入する<body>タグの中に半角のスペースを入れ、その後に **bgcolor** 属性をつけて、その値に好きな色を指定すれば、背景の色を変えることができます。

色の指定は red や green などのカラー名か、#ff0000 などの RGB 値で指定します。背景色を指定する場合は、文字が読みにくくならないように、文字色と背景色をよく考えて指定してください。



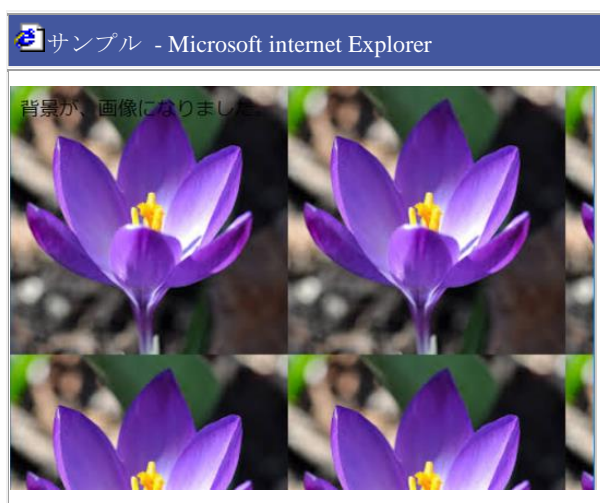
ソース (sample2_11.html)

```
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>サンプル</title>
</head>
<body>
<body bgcolor="pink">
背景色をピンクにしました。
</body>
</html>
```

2.12 背景に画像を使う

■ <body background="背景画像のアドレス (URL) ">～</body>

ページの背景に画像を表示したい場合は、<body>タグの **background** 属性で、背景に使う画像を指定します。



ソース (sample2_12.html)


```
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>サンプル</title>
</head>
<body background="../images/kaeru.gif">
背景が、画像になりました。
</body>
</html>
```

第3章 画像

3.1 画像を表示する

■


画像を表示するにはタグに src 属性をつけて画像のアドレスを指定します。同じフォルダ内にある画像ファイルを使う場合は、と記入するだけで画像が表示されます。

	<table border="1"><tr><th>ソース (sample3_1.html)</th></tr><tr><td><pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> </body> </html></pre></td></tr></table>	ソース (sample3_1.html)	<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> </body> </html></pre>
ソース (sample3_1.html)			
<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> </body> </html></pre>			

3.2 画像のサイズを指定する

■

画像のサイズを指定するには、**width** 属性と **height** 属性を使います。width 属性で横幅を指定し、height 属性で高さを指定します。ピクセル値もしくは画面に対する割合 (%) でそれぞれの大きさを決めます。ただし%で指定した場合、画像のバランスが崩れたりしますし、ピクセル値で指定することをお勧めします。

	<table border="1"><tr><th>ソース (sample3_2.html)</th></tr><tr><td><pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body>
 </body> </html></pre></td></tr></table>	ソース (sample3_2.html)	<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body>
 </body> </html></pre>
ソース (sample3_2.html)			
<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body>
 </body> </html></pre>			

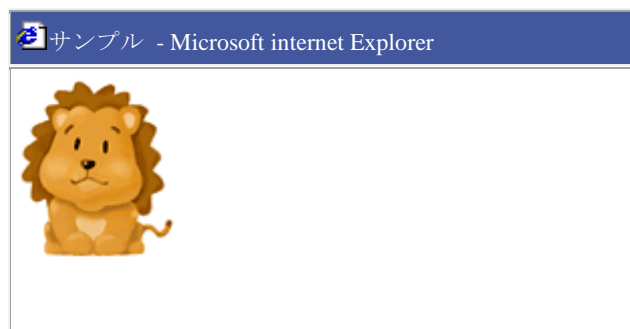
3.3 画像が表示されない場合のコメント

■ ``

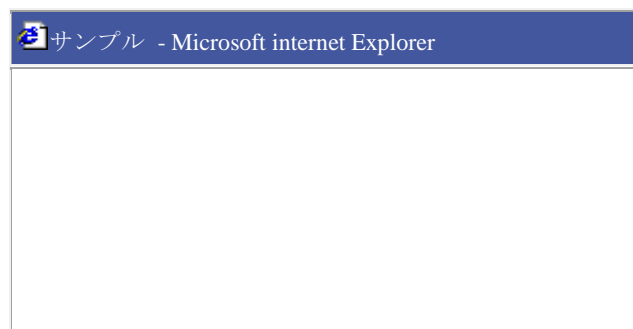
alt 属性は、サーバーがダウンするなど画像の読み込みに失敗した時や、画像を表示できないブラウザを使っている、または画像を表示しないように設定しているなどの場合に、画像の代わりにコメントを表示する属性です。

また、alt 属性を指定した画像が表示されている場合、その画像の上にマウスポインタを置くと吹き出しの形でコメントが表示されます。

画像が表示された場合



画像が表示されなかった場合



ソース (sample3_3.html)

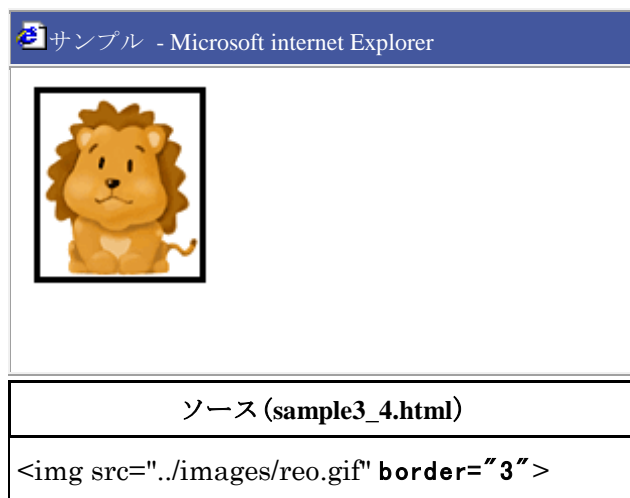
```
<!DOCTYPE html>
<html>
  <head>
    <meta charset="UTF-8">
    <title>サンプル</title>
  </head>
  <body>
    
  </body>
</html>
```


3.4 画像に枠をつける

■

画像に枠をつけるには **border** 属性を使います。枠線の太さはピクセル値で指定します。
注意しなければならないのは、**枠線の色は指定できません**ので、ブラウザの既定の色になります。

それと、画像を使ってリンクを貼った場合通常は枠が表示されますが、border="0" というように border 属性の値に 0 を指定すれば、枠を消すことができます。



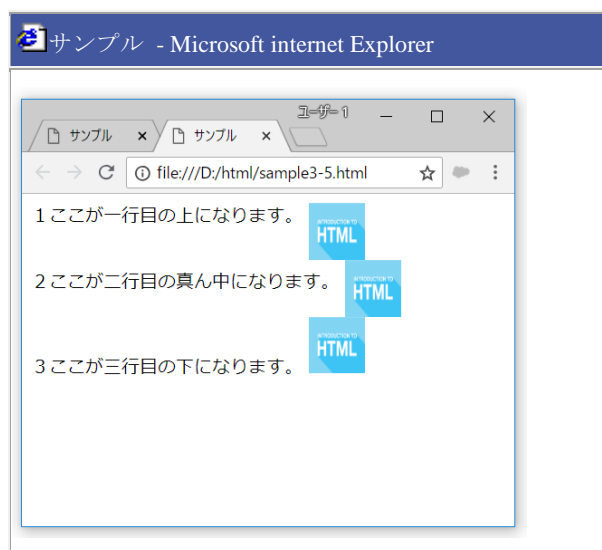
3.5 画像と文字の並び方を指定する

■

キーワードには **top**、**middle**、**bottom** のいずれかを指定

ブラウザは画像を文字と同じように認識しますので、画像の前後に文字がある場合、画像と文字を一行で下に表示します。

align 属性を使えば、文字を真ん中に配置したり上に配置することができます。



ソース (sample3_6.html)

```
<html>
<head>
  <meta charset="UTF-8">
  <title>サンプル</title>
</head>
<body>
  1 ここが一行目の上になります。
  
  <br>
  2 ここが二行目の真ん中になります。
  <img src ="../images/html.jpg " align="middle"
width="50" height="50">
  <br>
  3 ここが三行目の下になります。
  <img src ="../images/html.jpg " align="bottom"
width="50" height="50">
</body>
</html>
```

第4章 リンク

4.1 他のサイトにリンクする(テキスト)

■ テキスト

他のサイトに、テキストを使ってリンクするにはテキストというように記入します。リンクするための<a>タグを使って、値にリンクしたいサイトのアドレスを、**http://**からすべて正しく記入し、リンクを設定させたいテキストをこのタグで囲みます。

リンクを設定すると、標準の設定では文字の色が青色になりアンダーラインが引かれます。それと、**target** 属性をつけて値に **_blank** を指定すると、新しいウィンドウが開いて、そこにリンク先の内容を表示する事も出来ます。

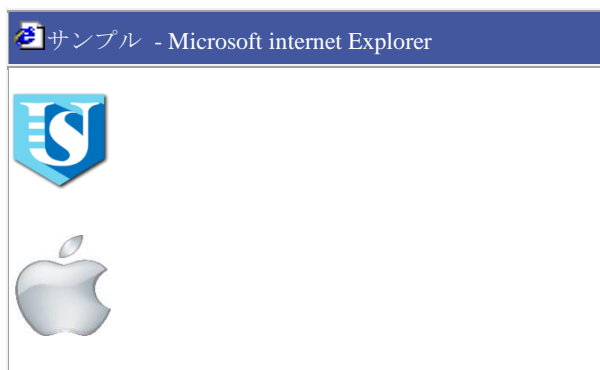
サンプル - Microsoft internet Explorer
株式会社ソフトユージング yahoo
ソース (sample4_1.html)
<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> 株式会社ソフトユージング
 yahoo </body> </html></pre>

4.2 他のサイトにリンクする(画像)

■

画像を使ったリンクを貼りたい場合は で画像を指定し、これをテキストにリンクを貼る時と同じように、～ で囲みます。

画像にリンクを貼った場合、通常の設定では画像の周りに枠が表示されますが、タグに **border** 属性をつけて値に **0** を指定すれば、枠を表示させないことができます。



ソース (sample4_2.html)
<pre> <html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body>
 </body> </html> </pre>

4.3 サイト内の別ページにリンクする

■ テキスト

他のサイトにリンクする場合には、<http://>から始まる絶対パスでアドレスを指定しましたが、自分のサイト内の別ページにリンクする場合は、相対パスでアドレスを指定することができますので、**ファイル名**を指定するだけでリンクすることができます。もちろん、この場合は同じフォルダ内にリンクを貼る **html** ファイルとリンクしたい **html** ファイルがある場合です。

自分のサイトのリンクを絶対パス (<http://>～) を使って指定することも出来ませんが、相対パス (sample3_5.html) を使った方が文字数が少なく記入が楽なので、相対パスで指定しましょう。あと、相対パスでアドレスを指定しておけば、サイトを引越ししても、フォルダの構成が変わらない限り、そのまま使うことができます。もし、絶対パスで指定していると、すべてのページのアドレスを新しいアドレスに書き換えないとはいけません。

ソース (sample4_3.html)
<pre> sample3_5.htmlにリンクしています。 </pre>

4.4 メール送信のリンク

■ `テキスト`

``

``タグを利用して、リンクをクリックしたユーザーのメールソフトを起動させることができます。起動されたメールソフトのアドレス入力欄には、「メールアドレス」に指定したメールアドレスが自動的に記入されます。

サンプル - Microsoft internet Explorer
<u>メールを書く</u>
ソース (sample4_4.html)
<pre><!DOCTYPE html> <html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> メールを書く
 </body> </html></pre>

4.5 同じページ内のリンク

■ `〜〜〜`

`〜〜〜`

このタグを使えば、同じページ内の指定した場所にリンクすることができます。

例えば縦に長いページを作成する場合、まずページの上の部分にメニューを作り、そこから同じページの指定した場所に移動したり、ページの一番下から上の部分にあるメニューに移動したりすることができます。

このタグの使い方ですが、まず、リンクしたい場所のテキストや画像を`〜〜〜`で囲み、その場所に名前をつけます。名前の指定は半角英数字で記入します。次にリンク元で`〜〜〜`のように、ハッシュマーク (#)に続けてリンクしたい場所につけた名前を指定します。

ソース (sample4_5.html)
<pre> <html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> ページの下に移動

 ページの下です。 </body> </html> </pre>

4.6 他のページの特定の場所へリンクする

■ 〜〜〜

他のページの特定の場所にリンクすることもできます。

同じページ内にリンクするのと同じ手順でできます。ただ違うのはのようにリンク先を指定するとき、名前の前に html ファイルのアドレスを記入しなければならないことです。

リンク元のソース (sample4_6.html)
<pre> <html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル </title> </head> <body> sample4_5.htmlのページの下 </body> </html> </pre>

4.7 リンクの文字色を指定する

■ <body link="#RGB 値かカラー名">〜〜〜</body>など

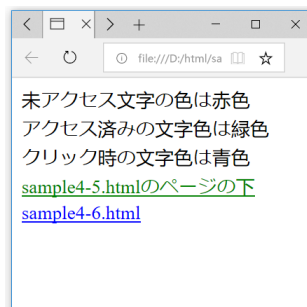
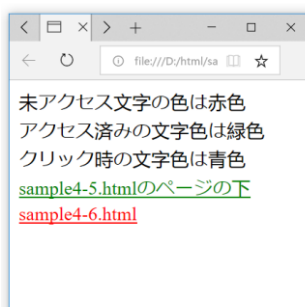
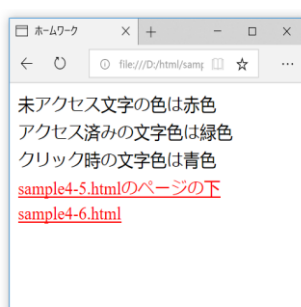
internet Explorer の標準の設定では、アクセスしたことのないリンクのテキストは青色に、アクセス済みのリンクのテキストは紫色になりますが、これらの色は変えることができます。<body>タグに下記の属性を指定します。色の指定はカラー名か RGB 値で指定します。

リンク色を指定する属性

<body link="〜">	未アクセスのテキストの色を指定できます。
<body vlink="〜">	アクセス済みのテキストの色を指定できます。
<body alink="〜">	クリック時のテキストの色を指定できます。

ソース (sample4_7.html)

```
<html>
<head>
  <meta charset="UTF-8">
  <title>ホームワーク</title>
</head>
<body link="red" vlink="green" alink="blue" >
  未アクセス文字の色は赤色<br>
  アクセス済みの文字色は緑色<br>
  クリック時の文字色は青色<br>
  <a href="sample4-5.html#shita">
  sample4-5.htmlのページの下</a><br>
  <a href="sample4-6.html">
  sample4-6.html</a>
</body>
</html>
```



第5章 リスト

5.1 記号を使ったリスト

■ ～

記号を使ったリストを作るには、まずリストの初めにタグを記入します。その中にリストの項目分の項目名を記入します。項目分のタグを記入したら、最後にタグを記入します。

サンプル - Microsoft internet Explorer	ソース (sample5_1.html)
<p>メニュー</p> <ul style="list-style-type: none">ラーメンチャーハンギョウザビール <p>以上</p>	<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> メニュー ラーメン チャーハン ギョウザ ビール 以上 </body> </html></pre>

5.2 記号の種類を指定する

■ <ul type="キーワード">～

キーワードには **disk**、**circle**、**square** のいずれかを指定

リストの記号は何も指定しない場合は、●（黒丸）ですが、**type** 属性を使って指定すれば○（白丸）や■（黒四角）にすることが出来ます。白丸にしたい場合は **type** 属性の値に **circle** を、黒四角にしたい場合は **square** を指定します。

type 属性をタグにつけるとリスト全体の記号を指定することが、タグに付ければ、その項目だけの記号を指定することが出来ます。

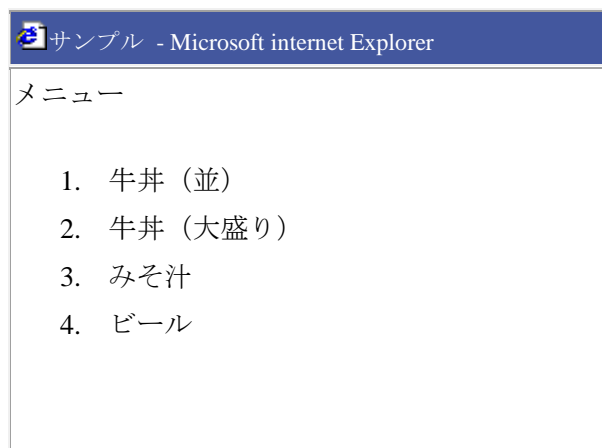
サンプル - Microsoft internet Explorer	ソース (sample5_2.html)
<p>circle の場合</p> <ul style="list-style-type: none">○ チワワ○ パグ○ 柴犬○ ビーグル <p>square の場合</p> <ul style="list-style-type: none">■ アメリカン・ショートヘア■ ペルシャ■ ロシアンブルー■ スコティッシュ・フォールド	<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body > circleの場合 <ul type="circle"> チワワ パグ 柴犬 ビーグル squareの場合 <ul type="square"> アメリカン・ショートヘア ペルシャ ロシアンブルー スコティッシュ・フォールド </body> </html></pre>

5.3 数字を使ったリスト

■ ～

数字を使ったリストを作るには、まずリストの初めにタグを記入します。その中にリストの項目分の項目名を記入します。項目分のタグを記入したら、最後にタグを記入します。そうすれば、タグには含まれた項目名の前に、数字が1から順番に表示されて、項目の左側に余白が入ります。

記号を使ったリストは全体を～で囲みましたが、それを～にするだけで、数字を使ったリストにすることが出来ます。



ソース (sample5_3.html)
<pre><html> <head> <meta charset="UTF-8"> <title>サンプル</title> </head> <body> メニュー 牛丼（並） 牛丼（大盛り） みそ汁 ビール </body> </html></pre>

第6章 テーブル

6.1 テーブル(表)の基本

■ <table>～</table> <tr>～</tr> <td>～</td>

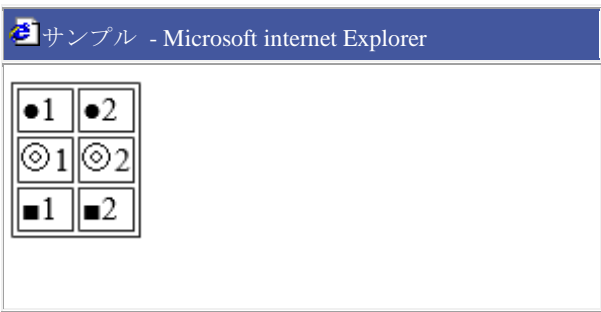
テーブル（表）を作成するには、まずテーブルの始まりを指定する<table>タグを記入し、テーブルの終わりを指定する</table>を記入して、テーブル全体を<table>～</table>で囲みます。この範囲内が1つのテーブルになります。そして、この中に一行を指定する<tr>タグや、セル（1マス）を指定する<td>タグなどの、テーブルを形成するタグを記入していきます。

ようするに、<tr>～</tr>の範囲内が一行になり、その中に必要なセルの数分<td>～</td>を記入します。例えば一行で2つのセルのテーブルを作るには次のように記入します。

```
<table>
<tr>  <td> 1 目のセル</td>  <td>二  目のセル</td>  </tr>
</table>
```

何となくテーブルのことがわかってきましたか？ このテーブル、単に表を作るだけでなくページのレイアウトのためによく使われています。凝ったデザインのサイトさんのソースを見てみると、テーブル関係のタグがたくさん書かれていると思います。

テーブルの説明図				説明
<TABLE>				1.表の始めりにTABLEを記入
<TR> <TD>●1</TD> <TD>●2</TD> </TR>				2.一行を指定するTRを記入
<TR> <TD>◎1</TD> <TD>◎2</TD> </TR>				3.セルの始めりを指定するTDを記入
<TR> <TD>■1</TD> <TD>■2</TD> </TR>				4.データを記入
</TABLE>				5.セルの終わりを指定する/TDを記入
				★3～5を必要なセル数分、繰り返す
				6.一行の終わりを指定する/TRを記入
				★2～6を必要な行数分、繰り返す
				7.表の終わりに/TABLEを記入する



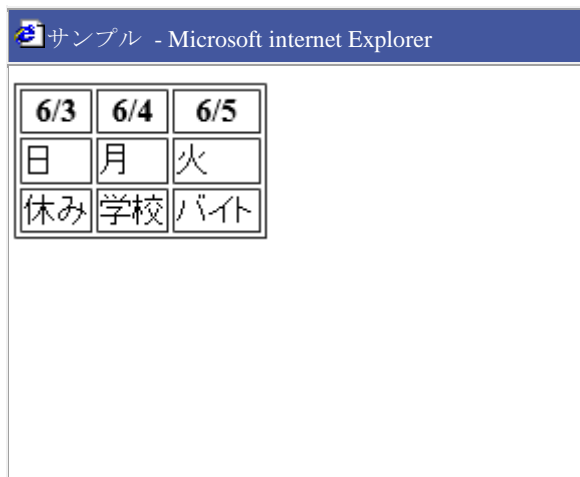
```
ソース (sample6_1.html)

<table border="1">
<tr><td>●1</td><td>●2</td></tr>
<tr><td>◎1</td><td>◎2</td></tr>
<tr><td>■1</td><td>■2</td></tr>
</table>
```

6.2 テーブルに見出しをつける

■ <th>～</th>

前のページではテーブルのセルを<td>タグで指定しましたが、これを<th>タグで指定することで、見出しをつけることができます。見出しとして指定されたセルは太字になり、さらにセンタリングされます。下記の例では日付の部分を<th>～</th>で囲んだので、日付が太字になりセンタリングされていますよね。



サンプル - Microsoft internet Explorer

6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_2.html)
<pre><table border="1"> <tr> <th>6/3</th><th>6/4</th><th>6/5</th> </tr> <tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>

6.3 外枠の線の太さを指定する

■ <table border="ピクセル値">～</table>

<table>タグに **border** 属性をつけることでテーブルに外枠をつけることができます。値にピクセル値を使って太さを指定します。今までの例では、説明の都合上<table>タグに border="1"と記入して外枠を表示してましたが、この数値を大きくすることで外枠を太くすることができます。

また、border 属性をつけなければ外枠は表示されません。

サンプル - Microsoft internet Explorer		
6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_3.html)	
<pre><table border="0"> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>	

サンプル - Microsoft internet Explorer		
6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_3.html)	
<pre><table border="5"> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>	

サンプル - Microsoft internet Explorer		
6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_3.html)	
<pre><table border="10"> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>	

6.4 テーブルのサイズを指定する

■ <table width="ピクセル値または%" height="ピクセル値または%">

<table>タグに、width 属性をつけてテーブルの横幅を、height 属性をつけてテーブルの高さを指定することができます。サイズの指定はピクセル値、もしくは%(画面などに対する割合)で指定します。

6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_4.html)
<pre><table border="1" width="120" height="120"> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>

6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース
<pre><table border="1" width="200" height="200"> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> < tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> < tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>

6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース
<pre><table border="1" width="250" height="100"> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> < tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>

6.5 セルのサイズを指定する

■ <td width="ピクセル値または%" height="ピクセル値または%">～</td>

<th width="ピクセル値または%" height="ピクセル値または%">～</th>

セルを指定する<td>タグや、見出しを指定する<th>タグの中に width 属性や height 属性をつけることで、セルの横幅や高さを指定することができます。サイズの指定はピクセル値または%で指定します。

サンプル - Microsoft internet Explorer

6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_5_1.html)

```
<table border="1">
<tr>
<td height="100">6/3</td>
<td>6/4</td><td>6/5</td>
</tr>
<tr>
<td>日</td><td>月</td><td>火</td>
</tr>
<tr>
<td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td>
</tr>
</table>
```

サンプル - Microsoft internet Explorer

6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_5_2.html)

```
<table border="1">
<tr>
<td width="100">6/3</td>
<td>6/4</td><td>6/5</td>
</tr>
<tr>
<td>日</td><td>月</td><td>火</td>
</tr>
<tr>
<td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td>
</tr>
</table>
```

サンプル - Microsoft internet Explorer

6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_5_3.html)

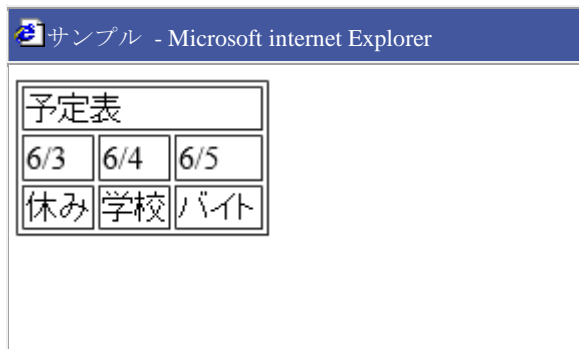
```
<table border="1">
<tr>
<td width="100" height="100">6/3</td>
<td>6/4</td><td>6/5</td>
</tr>
<tr>
<td>日</td><td>月</td><td>火</td>
</tr>
<tr>
<td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td>
</tr>
</table>
```

6.6 セルを横につなげる

■ `<td colspan="つなげるセルの数">～</td>`

`<th colspan="つなげるセルの数">～</th>`

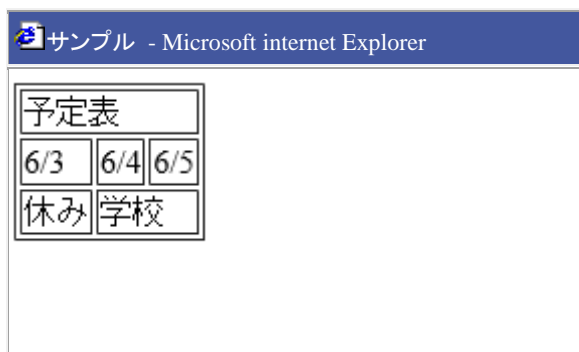
セルを横につなげることもできます。横につなげるには`<td>`もしくは`<th>`タグの中に **colspan** 属性をつけて結合するセル数を指定します。そうすると **colspan** 属性をつけた`<td>` もしくは`<th>`から右方向に指定したセル分結合できます。



サンプル - Microsoft internet Explorer

予定表		
6/3	6/4	6/5
休み	学校	バイト

ソース (sample6_6_1.html)
<pre><table border="1"> <tr> <td colspan="3">予定表</td> </tr> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>



サンプル - Microsoft internet Explorer

予定表		
6/3	6/4	6/5
休み	学校	

ソース (sample6_6_2.html)
<pre><table border="1"> <tr> <td colspan="3">予定表</td> </tr> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td colspan="2">学校</td> </tr> </table></pre>

6.7 セルを縦につなげ

■ <td rowspan="つなげるセルの数">～</td>

<th rowspan="つなげるセルの数">～</th>

セルを縦につなげることもできます。縦につなげるには<td>もしくは<th>タグの中に **rowspan** 属性をつけて結合するセル数を指定します。そうすると、rowspan 属性をつけた <td>もしくは<th>から下方方向に指定したセル分結合できます。

サンプル - Microsoft internet Explorer		
予定表	6/3	6/4
	日	月
	休み	学校

ソース (sample6_7_1.html)
<pre><table border="1"> <tr> <td rowspan="3">予定表 </td><td>6/3</td><td>6/4</td> </tr> <tr> <td>日</td><td>月</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td> </tr> </table></pre>

サンプル - Microsoft internet Explorer		
予定表	6/3	6/4
	日	月
	休み	

ソース (sample6_7_2.html)
<pre><table border="1"> <tr> <td rowspan="3">予定表 </td><td>6/3</td><td>6/4</td> </tr> <tr> <td>日</td><td rowspan="2">月</td> </tr> <tr> <td>休み</td> </tr> </table></pre>

6.8 セルの枠と内容の間隔を指定する

■ <table cellpadding="ピクセル値">～</table>

<table>タグの中に cellpadding 属性をつけることによって、セルに入力されているテキストなどの内容と、その内容を囲っている枠の間隔を変えることができます。何も指定しない場合は cellpadding="2"になります。

サンプル - Microsoft internet Explorer		
6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_8.html)		
<pre><table border="1" cellpadding="10"> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>		

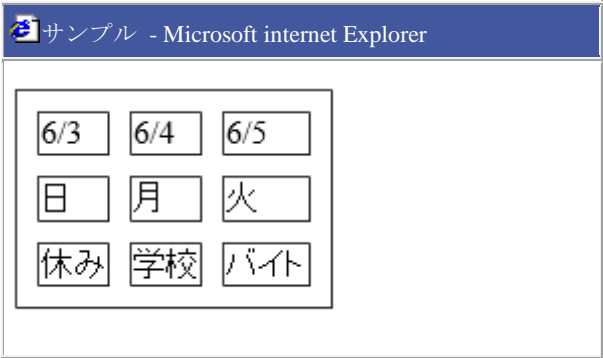
サンプル - Microsoft internet Explorer		
cellpadding="2"の場合(標準)		
6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

サンプル - Microsoft internet Explorer		
cellpadding="15"の場合		
6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

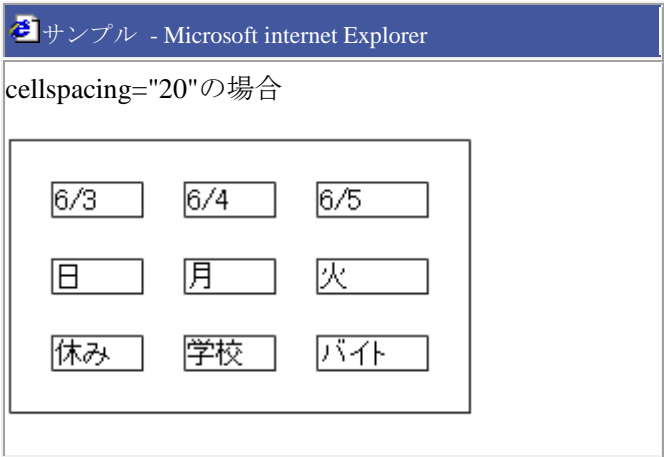
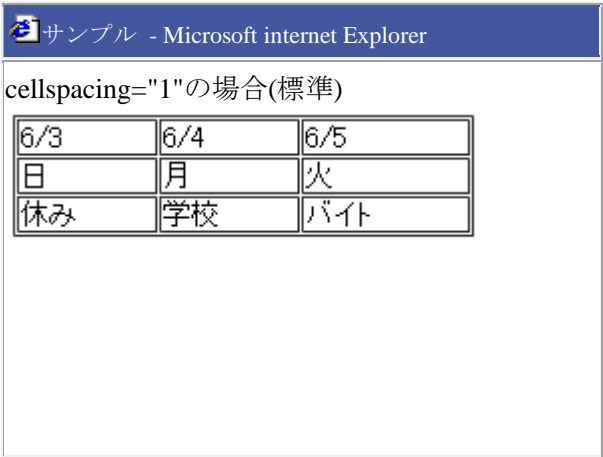
6.9 テーブルの内枠の間隔を指定する

■ <table cellpadding="ピクセル値">～</table>

<table>タグに **cellpadding** 属性をつけることによって、テーブルの外枠からセルまでの間隔と、セルからセルまでの間隔を指定することができます。何も指定しない場合は cellpadding="1"になります。



ソース (sample6_9.html)
<pre><table border="1" cellpadding="10"> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>



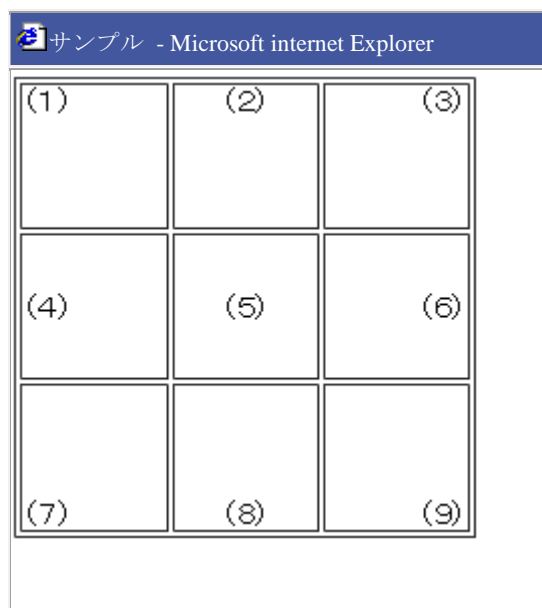
6.10 セル内の文字の位置を指定する

■ <td align="キーワード 1 " valign="キーワード 2 ">～</td>など

キーワード 1 には **left**、**center**、**right** のいずれかを指定

キーワード 2 には **top**、**middle**、**bottom** のいずれかを指定

セル内の文字の位置を指定するには、**align** 属性と **valign** 属性を使います。align 属性は段落を指定する<p>タグや、線を表示する<hr>タグのページで説明していますが、同じように横の位置を、左 (left) や中央 (center) そして右 (right) に指定することができます。valign 属性はここで初めて出てきましたが、この属性を使えば縦の位置を上 (top) や中央 (middle) そして下 (bottom) に指定することができます。この二つの属性を指定しない場合、<tr>タグと<td>タグは、align="left" valign="middle"とされるので、左揃えで縦の位置が中央にセル内の文字が表示されます。<th>タグの場合はセンタリングされるので、何も指定しない場合、align="center" valign="middle"となります。それと<tr>タグに align 属性と valign 属性を使って位置を指定すれば、その行のセル全体を、同じ位置にすることができます。



ソース (sample6_10.html)

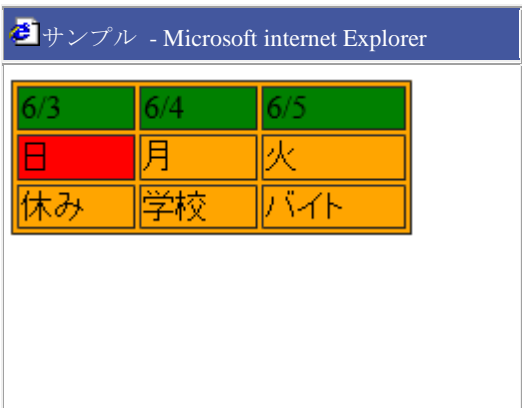
```
<table border="1" width="230" height="230">
<tr>
<td align="left" valign="top"> ( 1 ) </td>
<td align="center" valign="top"> ( 2 ) </td>
<td align="right" valign="top"> ( 3 ) </td>
</tr>
<tr>
<td align="left" valign="middle"> ( 4 ) </td>
<td align="center" valign="middle"> ( 5 ) </td>
<td align="right" valign="middle"> ( 6 ) </td>
</tr>
<tr>
<td align="left" valign="bottom"> ( 7 ) </td>
<td align="center" valign="bottom"> ( 8 ) </td>
<td align="right" valign="bottom"> ( 9 ) </td>
</tr>
</table>
```

6.11 テーブルの背景に色をつける

■ <table bgcolor="カラー名または RGB 値">～</table>など

テーブルの背景に色をつけるには、**bgcolor** 属性を使います。ページ全体の背景色を指定するには、<body>タグに bgcolor 属性をつけて背景色を指定しましたが、この bgcolor 属性を<table>タグにつければ、そのテーブル全体の背景色を指定することが出来ます。

また、bgcolor 属性を<tr>タグにつけることでその行の背景色を、<td>タグや<th>タグにつけることで、そのセルのみの背景色を指定することもできます。下記の例ではテーブル全体の背景色をオレンジ色に、日付の 1 行を緑色に、日のセルだけを赤色に指定します。

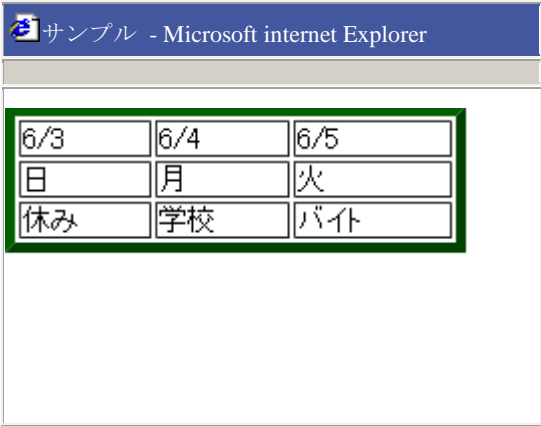


6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_11.html)
<pre><table border="1" width="200" bgcolor="orange"> <tr bgcolor="green"> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td bgcolor="red">日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>

6.12 テーブルの枠線の色を指定する

<table bordercolor="カラー名か RGB 値">～</table>



6/3	6/4	6/5
日	月	火
休み	学校	バイト

ソース (sample6_12.html)
<pre><table bordercolor="green" border="5" width="230"> <tr> <td>6/3</td><td>6/4</td><td>6/5</td> </tr> <tr> <td>日</td><td>月</td><td>火</td> </tr> <tr> <td>休み</td><td>学校</td><td>バイト</td> </tr> </table></pre>

第7章 フォーム

7.1 フォームについて

■ <form>～</form>

掲示板や、ネットショッピングで買い物する時に記入する商品注文フォーム、あるいはチャットなどで名前やメッセージなどを入力できる欄がありますね。これはフォームを使って作られています。このフォームは `html` タグのみで使われることは少なく、実際は `CGi` や `JavaScript` などを用いて使われます。

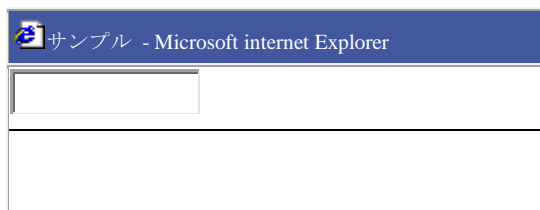
フォームを作るには、`<form>`タグを使います。ひとつのフォーム全体を`<form>～</form>`で囲みます。この中に名前の入力欄や、送信ボタンを表示させるタグを記入します。

サンプル - Microsoft internet Explorer	ソース (sample7_1.html)
<p>お名前 <input type="text"/></p> <p>メール <input type="text"/></p> <p>性別 ♂ <input checked="" type="radio"/> ♀ <input type="radio"/></p> <p>メッセージ <input type="text"/></p> <p><input type="button" value="送信"/> <input type="button" value="クリア"/></p>	<pre><html> <head> <title>サンプル</title> </head> <body> <form action="mail.cgi" method="post"> お名前
 <input type="text" name="nae"> <p>メール
 <input type="text" name="mail"></p> <p>性別
 ♂<input type="radio" name="sex" value="man" checked> ♀<input type="radio" name="sex" value="woman"></p> <p>メッセージ
 <textarea name="naiyou" cols="30" rows="5"> </textarea></p> <input type="submit" value="送信"> <input type="reset" value="クリア"> </form> </body> </html></pre>

7.2 一行のテキストボックス

■ <input type="text" name="テキストボックスにつける名前">

1行だけのテキストボックスを作るには、<input>タグに type 属性をつけて値に text を指定します。それと、name 属性でこのテキストボックスに名前を指定します。前述したようにフォームは主に CGI など使われます。記入内容を送信した時に、どの入力欄に記入されたデータなのかをプログラムが判断出来るように、必ず name 属性を記入して名前を指定して下さい。



ソース (sample7_2.html)

```
<form>
<input type="text" name="naeae">
</form>
```

・テキストボックスの横幅

■ <input type="text" size="数値">

テキストボックスの横幅を指定するには、size 属性を使います。何も指定しない場合は、size="20"を指定した場合と同じ横幅になります。



ソース (sample7_2.html)

```
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>サンプル</title>
</head>
<body>
<form>
size="30"の場合<br>
<input type="text" size="30" name="po">
<br>
size="40"の場合<br>
<input type="text" size="40" name="ho">
</form>
</body>
</html>
```

- ・初めからテキストを表示

- `<input type="text" value="テキストボックスに表示される文字">`

テキストボックスに初めから文字を表示させることが出来ます。`value` 属性の値に表示させたいテキストを指定します。



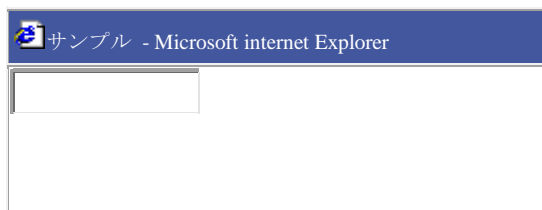
ソース
<pre><form> < input type="text" value="http://" name="po"> </form></pre>

- ・入力できる文字数を指定する

- `<input type="text" maxlength="指定文字数">`

テキストボックスに入力する文字数を制限することも出来ます。

`<input>`タグに `maxlength` 属性をつけて値に上限の文字数を記入します。サンプルのテキストボックスは、5 文字しか記入できません。

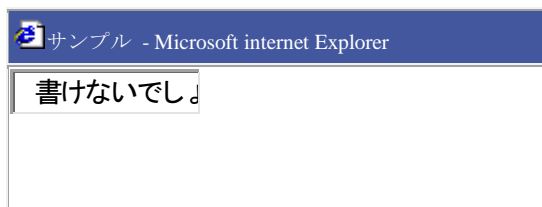


ソース
<pre><form> < input type="text" maxlength="5" name="hi"> </form></pre>

- ・読み取り専用にする

- `<input type="text" name="テキストボックスにつける名前" readonly>`

テキストボックスに JavaScript を使ってメッセージを表示する場合など、特に何も記入する必要がない場合、`<input>`タグに `readonly` 属性を付けることで、読み取り専用にすることが出来ます。



ソース
<pre><form> < input type="text" name="namae" value="書けないでしよ" readonly> </form></pre>

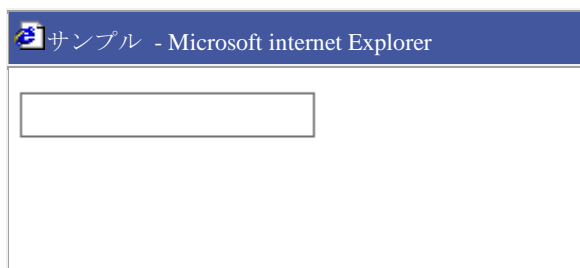
7.3 パスワードボックス

■ <input type="password" name="パスワードボックスにつける名前">

一行のテキストボックスを作るには、input タグに type 属性を付けて、値に text を指定しましたが、この値を password にすることで、パスワードボックスを作る事が出来ます。このボックスの中に文字を記入してもそのまま表示されずに、アスタリスク (*) が記入された文字の数だけ表示されます。

注意しなければならないのは、パスワードボックスに記入しても、画面上に記入した文字が表示されないだけであって、データが暗号化されるわけではありません。

指定できる属性は、一行テキストボックスを作る場合と同じです。



ソース (sample7_3.html)
<pre><form> <input type="password" name="pass"> </form></pre>

7.4 テキストエリアボックス

■ <textarea cols="横幅" rows="行数" name="名前">～</textarea>

掲示板のコメント欄のように、複数の行にわたって記入する欄を作るには、<textarea> タグを使います。最初から文字を表示させる場合は、<textarea>～</textarea>の中に文字を記入します。

<input>タグと違って value 属性は使いません。

テキストエリアボックスのサイズは cols 属性で横幅を、rows 属性で行数をそれぞれ指定することが出来ます。

・読み取り専用にする

■ <textarea name="名前" readonly>～</textarea>

テキストエリアボックスを更新履歴やメッセージの表示に使う場合、ただ読めるだけでいいですね。そうしたい場合は<text area>タグに readonly 属性を付けます。



ソース (sample7_4.html)
<pre><form> <textarea readonly> 何も書けませんね </textarea> </form></pre>

7.5 ラジオボタン

■ `<input type="radio" name="ラジオボタンの名前" value="送信されるデータ">`

ラジオボタンとは、掲示板や何かのアンケートで見た事あると思いますが、丸いボタンが表示されてクリックすると中に黒い点が表示されるものです。このボタンの使い方ですが、選択肢のうちの一つだけを選んでもらいたい場合に使います。

ラジオボタンを作るには、`input` タグに `type` 属性を付けて値に **radio** を指定します。指定できる属性ですが、`name`、`value`、`checked` などがあります。まずは `name` 属性ですが、CGiなどでデータを参照するために必ず名前をつけます。名前の付け方ですが、同じ名前を付けたラジオボタンが一つのグループになって、そのうちの一つを選択できるようになります。もし、別の名前を付けた場合、名前の種類ごとに選択できてしまいますので、必ず同じ名前を付けます。

次に、`value` 属性ですが、この属性で指定された値がデータとして送信されます。また、初めからどれか一つ選択しておきたい場合は `checked` 属性を指定します。

サンプル - Microsoft internet Explorer	
性別	
男 <input type="radio"/> 女 <input type="radio"/>	
職業	
<input checked="" type="radio"/> サラリーマン <input type="radio"/> 自営業 <input type="radio"/> 主婦 <input type="radio"/> その他	
ソース (sample7_5.html)	
<pre><form> <h5>性別</h5> 男<input type="radio" name="sex" value="man"> 女<input type="radio" name="sex" value="woman"> <h5>職業</h5> <input type="radio" name="job" value="sarari" checked>サラリーマン
 <input type="radio" name="job" value="jiei">自営業
 <input type="radio" name="job" value="syuhu">主婦
 <input type="radio" name="job" value="sonota">その他 </form></pre>	

7.6 チェックボックス

■ <input type="checkbox" name="名前" value="送信されるデータ">

ラジオボタンは、選択肢の中から一つしか選択できませんでしたが、チェックボックスを使えば複数の項目を選択できます。<input>タグに type 属性を付けて値に **checkbox** を指定します。このタグにも name 属性を必ず指定します。同じ名前をつけたチェックボックスが一つのグループになります。

それと value 属性ですが、この属性で指定された値がデータとして送信されます。また、初めからどれか一つ選択しておきたい場合は、checked 属性を指定します。

サンプル - Microsoft internet Explorer
<h3>海外旅行に行くなら？</h3> <p><input checked="" type="checkbox"/> アメリカ <input type="checkbox"/> イタリア <input type="checkbox"/> フランス <input type="checkbox"/> インド <input type="checkbox"/> タイ</p>
ソース (sample7_6.html)
<pre><form> <h5>海外旅行に行くなら？</h5> <input type="checkbox" name="tabi" value="america" checked="">アメリカ
 <input type="checkbox" name="tabi" value="itly">イタリア
 <input type="checkbox" name="tabi" value="france">フランス
 <input type="checkbox" name="tabi" value="india">インド
 <input type="checkbox" name="tabi" value="thai">タイ </form></pre>

7.7 プルダウンボックス

■ <select name="名前">～</select>

<option value="送信されるデータ">～</option>

プルダウンボックスを作るには、<select>～</select>で範囲を指定し、この中に、項目数分<option>～</option>を記入します。選択肢として表示させたいテキストは<option>と</option>の中に記入します。なお、終了タグの</option>は省略する事が出来ます。

指定できる属性ですが、name、value、selected などがあります。name 属性は select タグに指定し、プルダウンボックスに名前をつけます。value 属性は、option タグに指定し、

その選択肢が選択された場合に送るデータを指定します。この属性を指定しなかった場合は、選択肢として表示されているテキストがデータとして送られます。

あと、フォームが表示されたときにある選択肢を選択しておきたい場合は、**selected** 属性を任意の **option** タグに指定します。

サンプル - Microsoft internet Explorer
今日の気分は？
<input type="text" value="めっちゃいい！！"/>
ソース (sample7_7.html)
<pre><form> <h5>今日の気分は？</h5> <select name="kibun"> <option value="saikou">めっちゃいい！！</option> <option value="botiboti">まあまあいい！</option> <option value="hutuu">普通</option> <option value="saiaku">最悪・・</option> </select> </form></pre>
サンプル - Microsoft internet Explorer
今日の気分は？ (普通を初めから選択)
<input type="text" value="普通"/>
ソース
<pre><form> <h5>今日の気分は？(普通を初めから選択) </h5> <select name="kibun"> <option value="saikou">めっちゃいい！！</option> <option value="botiboti">まあまあいい！</option> <option value="hutuu" selected>普通</option> <option value="saiaku">最悪・・</option> </select> </form></pre>

7.8 リストボックス

```
<select size="行数" name="名前">～</select>
```

```
<option value="送信されるデータ">～</option>
```

リストボックスを作るには、`select` タグの中に **size 属性**を指定し、値に行数を指定します。`size="3"`というように記入すれば、三行のリストボックスが表示されます。`size` 属性で指定された行数より、`option` タグで指定された選択肢が多い場合は、スクロールバーが表示されます。

また、**multiple 属性**を `select` タグに指定すれば、複数選択できるようになります。Windows 使っている場合は、「Shift」＋右クリックや「Ctrl」＋右クリックをして複数選択します。その他の属性は、プルダウンボックスを作る場合と同じです。

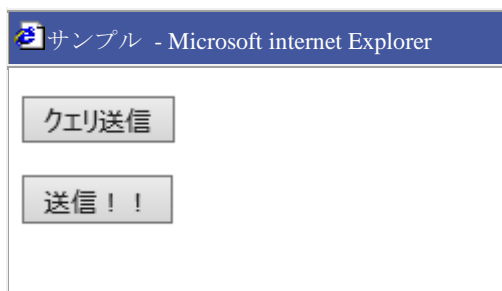
ソース (sample7_8.html)
<pre><form> <select size="3" name="ryouri"> <option value="nikujyaga">肉じゃが</option> <option value="sukiyaki">すき焼き</option> <option value="kare">カレーライス</option> <option value="guratan">グラタン</option> <option value="hanbaku">ハンバーグ</option> <option value="kanitama">かに玉</option> </select> </form></pre>

ソース
<pre><form> <select size="6" multiple name="ryouri2"> <option value="nikujyaga">肉じゃが</option> <option value="sukiyaki">すき焼き</option> <option value="kare">カレーライス</option> <option value="guratan">グラタン</option> <option value="hanbaku">ハンバーグ</option> <option value="kanitama">かに玉</option> </select> </form></pre>

7.9 送信ボタン

■ `<input type="submit" name="名前" value="ボタンに表示するテキスト">`

フォームに記入されたデータを CGI や JavaScript に受け渡したり、メールを使って送信するには、送信ボタンを作ってデータを送信します。送信ボタンを作るには、`<input>` タグに `type` 属性つけて、値に **submit** を指定します。また、`value` 属性を指定すれば、ボタンに表示させるテキストを指定する事が出来ます。

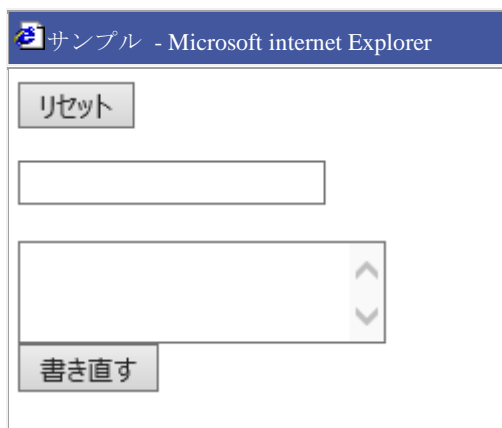


ソース (sample7_9.html)
<pre> <form> <input type="submit" name="ok"> <p> <input type="submit" value="送信！！" name="go"> </p> </form> </pre>

7.10 リセットボタン

■ <input type="reset" value="ボタンに表示するテキスト">

type 属性の値に **reset** を指定すれば、リセットボタンを作る事が出来ます。リセットボタンを押すと、記入する前の状態になります。つまり、フォームに入力した情報がすべて消えます。リセットボタンも、送信ボタンと同じように value 属性を使えば、ボタンに表示させるテキストを指定できます。もし指定しない場合は、internet Explorer では「リセット」、Netscape Navigator4.7 では「Reset」、Netscape7.0 では「リセット」と表示されます。



ソースソース (sample7_9_2.html)
<pre> <form> <input type="reset"> <p> <input type="text" name="test1">

 <textarea name="test2" cols="20" rows="3"> </textarea>
 <input type="reset" value="書き直す"> </p> </form> </pre>

7.11 データの送信先などの指定

■ <form action="送信先" method="送信方法" enctype="送信形式">

フォームに記入されたデータを CGI などに送るには、<form>タグにデータの送信先や送信方法、送信形式などを指定します。

属性の種類と説明
action action 属性で送信ボタンが押された時にデータを送る URL を指定します。CGi の URL(http://masaboo.cside.com/mail.cgi) や、メールアドレスの前に mailto:をつけたもの (mailto:masaxxx.com)を記入します。
method method 属性はデータの送信方法を指定します。値には get 、 post が指定でき、何も指定しない場合は get になります。この二つの違いですが、 get は少ないデータを送信する場合に、 post はたくさんのデータを送信する場合に使います。
enctype enctype 属性は、method 属性で post を指定した場合のデータ送信形式を指定します。 「 application/x-www-form-urlencoded 」、「 text/plain 」、「 multipart/form-data 」の3種類が指定できます。何も指定しない場合は application/x-www-form-urlencoded になりますが、この形式で送信した場合、内容が英数字と%に変換されるので、読むには日本語に変換するソフトが必要です。 次に text/plain ですが、この値を指定すれば内容が変換されずに送信されます。メールでフォームの送信をする場合は、 enctype="text/plain" とします。 最後に、 multipart/form-data ですが、ファイル参照のフォームを作る場合はこれを指定します。
ソース
<pre><form action="mail/mail.cgi" method="post" enctype="multipart/form-data"> 省略 </form></pre>

7.12 メールで送信する

■ `<form action="mailto:メールアドレス" method="post"`

`enctype="text/plain">`

CGi を使わずに、メールでフォームの内容を送信することが出来ます。まずは、`action` 属性の値に「**mailto:**」をつけて、その後にメールアドレスを記入します。そして、`method` 属性の値に `post` を、`enctype` 属性の値に `text/plain` を指定します。

しかし、送信者の使っているメールソフトやブラウザの種類、そのバージョンやソフトの設定などによって送信出来ない場合もあります。ちょっとしたメッセージを受け取る場合に使うのはいいと思いますが、やはり、CGi を使ったメールフォームの方がいいと思います。

ソース	
<pre><form action="mailto:xx@xx.com" method="post" enctype="text/plain"> お名前<input type="text" name="namae">
 メール <input type="text" name="mail"> < p> メッセージ
< text area cols="20" rows="3" name="mes"></text area> </p> < input type="submit" value="送信！！" name="go"> < input type="reset" value="書き直す"> </form></pre>	